



山田八景めぐりハイキングコース (前編)

距離：約 7.5km、時間：3 時間

今回は、水府農産物直売所をスタート地点として、山田八景の地を巡ります。山田八景とは、旧山田村（現在の和田町・東連地町・松平町・棚谷町・国安町）の八つの景勝地のことです。徳川齊昭が選定した水戸八景になぞらえ、旧山田村においても村内の美しい景色を将来に残そうと、昭和5（1930）年ごろに地元有志によって選定されました。それぞれの場所にまつわる詩もその時に作られたと思われます。前編では、8カ所のうち、南部と東部に位置する4カ所を巡ります。八景となっている場所の景観はもちろんのこと、歩きながら見える遠くの山々や山田川の清流も美しく、心が癒されます。景色や自然を楽しみながら、のんびり歩いてみてはいかがでしょうか。

※後編も今後掲載予定です。お楽しみに！！

4 面影山暮雪 (東連地町・嵯峨神社)



嵯峨神社がある山を面影山という。平安時代中期、新羅三郎義光が陸奥の国で苦戦する兄・八幡太郎義家の応援に向かう途中、この山で休みながら遠い地の兄の面影を偲び安否を気づかったことから、いつしか面影山と呼ばれるようになったとされる

白妙に雪は積もれり暮方の
眺めおかしき面影の山

3 皇跡山秋月 (東連地町・青蓮寺)



大分県白杵市と姉妹都市提携を結びきっかけとなった「二孝女物語」ゆかりの寺。文化8（1811）年に豊後国白杵の姉妹が300里（1200km）離れた青蓮寺まで、病床の父を迎えにきた

一たひは来て見よ澄み渡る
皇跡山の秋の夜の月



1 永祿山晩鐘 (松平町・密蔵院)



正式には永祿山密蔵院長松寺といい、永祿2（1559）年に和田町の飯淵坂から現在地へと移されたとされる。詩で詠まれている鐘は、現存していない

夕餉たく煙も見えて永祿の
山より響く入相のかね

2 山田川納涼 (和田町・堰場)



昔、堰があった場所。現在でも、美しい川原の景色を見ることができる。詩を詠むと、夏にこの川原を眺めて涼しんでいた様子が想像できる

佇めば袖ふく風も心地よし
山田川原の夏の夕ぐれ